



はる
いなり
原 稲荷
くすの木の
葉がくれに



いろは島
しじまはらとう
四十八島
朝がすみ

はし
ぞら
星空に
町を総出の
盆おどり

えい
が
にあんちゃん
映画なつかし
鯛之鼻



ろく
じぞう
六地藏
おおやまあさがい
大山浅谷
辻の庄



けん
ちく
部屋ごとに
建築の粋
東香荘



第2部

かるためぐり

かるたことばと絵札

かるたことばには、その1枚1枚に福島町内の文化財をはじめ名勝、旧跡、風物、郷土芸能などの福島の特徴がうまく取り入れられています。福島を愛し、福島を知り尽くしているからこそ、そして俳句を愛する小川さんだからこそ生まれた、かるたことばです。

坂口さんが担当した絵札は、版画風に描かれています。白と黒の調和が素晴らしく、力強く、温かみあふれる絵札です。

貴重な資料

「いろはかるた」の完成から既に約27年の月日が流れています。その間に福島町の風景も様変わりしました。つばき荘は、老朽化に伴い現在建替え工事が進んでおり、当時のつばき荘は跡形もありません。また、鍋串港では埋め立てが進み、その風景が大きく変わっています。

今後も、古くから慣れ親しんできた町並みや風物などは時代とともに少しずつ変わっていくことでしょう。だからこそ「いろはかるた」は、当時の福島町の物語を後世に伝える貴重な資料となるのです。

特集 福島かるた物語



皆が集う場所に

貴重な資料にもなる「いろはかるた」のかるたは、多くの人目に触れるようにと、さまざまなイベントに活用される会場、人々が集う福島町のふれあい広場にちりばめられています。

舞台壁面には「いろはかるた」にも出てくる浮立の様子や絵がタイル張りにしてあり、舞台下にはかるたのすべが並んでいます。また広場内には絵札、地面には福島のかるたの頭文字が埋め込まれ、その位置が分かるようになっています。

かるたを基に

「いろはかるた」は、かるたをするだけでも十分に楽しむことができ、かるたをしながらふるさとの名勝、旧跡などを知ることができます。さらに「いろはかるた」に出てくる名勝や旧跡などを実際にめぐって



いけば、ふるさとをより深く知ることができ、新しい発見もできるかもしれません。小川さんによる解説を参考にしながら、「いろはかるた」のいくつかを紹介いたします。



「いろは島」
しじゅうはちとう
四十八島
あさ
朝がすみ

いろは島は福島の代表的景観です。福島の東海岸と唐津市肥前町の西海岸に囲まれた波静かな湾上に浮かんでいます。大小48個の島からなるというのでこの名が付いています。

明治39年8月、哲学者井上円了博士は、福寿寺から眺めて「松島のように」と感嘆され、いくつかの詩を残されました。玄海国定公園の一部。



黒い岩脈は水成岩をつきやぶって黒い玄武岩が噴き出したもので、弁天島まで約400mにわたって帯状に続いており、干潮時には点々と露出します。岩脈の幅は1〜1.5mくらい。地質学的に珍しいとされています。長崎県指定天然記念物。



「湧きいでし」
マグマ
べんてんじまがんみやく
弁天島岩脈